

# 育てたウミガメ 海へ

## 崎本部小児童が放流

本部



ウミガメを放す崎本部小学校の児童 7月19日、本部町の崎本部海岸

【本部】本部町立崎本一長の児童17人が7月19日、崎本部海岸で、標識

放流調査の一環として14匹のアカウミガメとアオウミガメを放流した。

崎本部小は、3年前から海洋博公園管理センターと協力して、ウミガメを育てて放流する学習に取り組んでいる。

この日は、児童一人一人が、育てたカメを1匹ずつ名残惜しそうに放した。

放流後、海洋博公園管理センター動物管理チーム技師の前田好美さんが、ウミガメの回遊地域を世界地図で説明。沖縄で放流したアカウミガメが黒潮に乗って米国の西海岸で見つかったこと

や、年間約200匹放流し、8匹ぐらいは同じ場所に戻ってくることを話した。

仲井間亮君（5年）は「2年間育てたウミガメが海に帰ってよかった」、仲井間優君（5年）は「放流する時、爪で引つかかれたけど海に帰れてよかった」とうれしそうに話した。

玉城慈健君（3年）は「今度は僕たちが育てて放流したい」と話した。

津波古美加教諭は「母ウミガメになった気持ちで穴を掘ってみよう」と呼び掛け、子どもたちは母ウミガメをまねて、卵を産む様子を再現していた。ことしも9月からウミガメ飼育をする予定だ。

（金城美佐子通信員）

（2012年8月8日 28面）

☆放流されたカメの気持ちになって吹き出しのセリフを考えてみよう。

☆アカウミガメ、アオウミガメの特徴の違いを調べてみよう。